

## 『図書館文化史研究』投稿規程・執筆要領

### 投稿資格

1. 日本図書館文化史研究会会員は投稿することができる。

### 投稿区分

2. 投稿区分には、論文・研究ノート・書評・資料紹介・随想がある。

論文：オリジナルな研究成果をまとめたもので、独創性、新規性、正確さなどの観点から価値があり、図書館文化史研究の進展に寄与するもの

研究ノート：新規性を有する研究成果をまとめたもので、本格的な研究に向けた展望と考察、国内外の研究動向や新しい研究手法などを紹介したもの

書評：図書館文化史研究に資する有用な文献を批評したもの

資料紹介：図書館文化史研究に資する有用な資料を紹介したもの

随想：図書館文化史研究や図書館文化史上の事項に関する個人的な見解、試論や提案など

### 投稿内容

3. 投稿原稿は未発表のものに限り、原則として日本語による執筆とする。(刊行予定を含む)単行書・単行書収載論文や、雑誌・紀要などにすでに発表された内容および掲載予定・投稿中の内容、科学研究費補助金などの研究報告書に掲載済の内容は、投稿することができない。ただし、口頭発表をまとめた内容や、学会・研究会の予稿集に載せられた内容、未公開の修士論文・博士論文の一部などは投稿することができる。

### 著作権・転載

4. 掲載原稿の著作権は、本研究会に帰属する。著者は、自らの出版物や機関リポジトリ等のウェブサイトには論文等の転載を希望する際は、本会に転載許可を申請する必要がある。転載にあたっては、適切な方法で出典を明記する。ただし博士論文の利用に際しては、出典を記載するものとする。

### 書式・分量

5. (1) 原稿は完全原稿とする。書式は、A4用紙（縦位置）、横書きに設定する。手書きの場合は400字詰（20字×20行）原稿用紙を用いる。  
(2) 枚数制限は特に設けないが、長文の場合2回以上の分載とすることがある。  
(3) 図版は、そのまま版下として使用できるよう鮮明なものを提出する。掲載にあたって著作権の許諾が必要なものは、投稿者が許諾処理を行った上で使用する。

### 原稿提出

6. (1) 原稿は、原則としてメール添付により、Word文書およびpdf形式の電子データを別記編集委員会に送付する。郵送する場合は書留でコピー2部を送ること。  
(2) 原稿本文の冒頭に投稿区分、標題、250字程度の和文抄録を記載する。  
(3) 標題（外国語併記）、著者名（ローマ字併記）、著者の所属機関名、原稿の区分、および連絡先（住所、電話番号、メールアドレス）を記入した別紙を添付する。  
(4) 投稿締切は、毎年12月末日（必着）とする。

## 編集委員会

7. (1) 原稿の採否は編集委員会が決定する。
- (2) 論文と研究ノートは、別に定める査読内規に基づく審査を経て、編集委員会が採否を決定する。
- (3) 編集委員会は原稿の内容・表現等について、著者に修正・書き直しを求めることがある。また、編集委員会で用字・用語等について、修正・統一をすることがある。

## 校正・抜刷

8. (1) 著者校正は再校までとする。その際、字句の修正以外は原則として認めない。
- (2) 抜刷を希望する者には、実費負担で20部を提供する。

## 体裁・表記

9. 原稿の執筆は以下の要領による。
  - ① 本文の見出し区分は、原則としてポイントシステムを使用し、次のように表記する。
    1. \_\_\_\_\_
    - 1.1. \_\_\_\_\_
    - 1.1.1. \_\_\_\_\_
  - ② 句読点は「，」「。」を用い、各1字分をとる。その他の記号類も各1字分をとるが、点線（……）・ダッシュ（—）は各2字分をとる。
  - ③ 数字は引用文、および漢語の一部となっている場合を除き半角アラビア数字を用いる。
  - ④ 外国語は慣用的呼称をカタカナで表記し、必要に応じて原綴を（ ）に記す。手書き原稿の欧文文字の大文字は、1マス1字、小文字は1マス2字をあてる。
  - ⑤ 西暦年以外の紀年を使用するときは、必要に応じて西暦年を（ ）に入れて併記する。
  - ⑥ 本文中の引用文献のタイトルは、欧語の場合は斜体で、手書き原稿はアンダーラインで示し、それ以外は『 』に入れる。
  - ⑦ 本文中の論文等のタイトルは、欧文の場合は“ ”に入れ、それ以外は「 」に入れる。
  - ⑧ 本文中の引用は、「 」、または“ ”に入れる。長文の場合は行を改め、本文より2字下げて記す。
  - ⑨ 注は1)、2)のように通し番号を付け、全文の末尾にまとめる。その際文献の記載については、原則として以下のように記載する。

### [雑誌論文からの引用]

- 1) 渡辺重夫「国民の権利としての図書館利用」『図書館学会年報』Vol. 30, No. 2, 1984. 6, p. 55-56.
- 2) Harris, Michael H. “The dialectic of defeat : antimonies in research in library and information science,” *Library Trends*. Vol.34, No.3, 1986, p.515-531.

### [図書からの引用]

- 3) 永末十四雄『日本公共図書館の形成』日本図書館協会, 1984, p. 352-353.
- 4) Newhouse, Joseph P. and Arthur J. Alexander. *An Economic Analysis of Public Library Services*. Lexington, D.C. Heath Co., 1972, p.120-121.

### [インターネット上の情報]

- 5) 石村恵子「電子図書館と著作権」『つくばね』[オンライン] Vol. 23, No. 4, 1998.4  
[引用日: 1998-09-07] <URL:http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/pub/tsukubane/2304/

ishimura.html>

- 6) International Council on Archives. *ISAD(G) : General International Standard Archival Description* [online]. Ottawa, ICA, 1994 [引用日: 1998-09-07]  
<URL:http:// www.archives.ca/ica/isad.html>

**投稿送付先**

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1  
明治大学司書・司書教諭課程気付 日本図書館文化史研究会事務局  
e-mail: office@jalih.jp

付則

2021年9月18日一部改定